

高品質,良食味な病害虫複合抵抗性水稻新品種「愛知108号」の育成

誌名	愛知県農業総合試験場研究報告 = Research bulletin of the Aichi-ken Agricultural Research Center
ISSN	03887995
著者名	加藤,満 城田,雅毅 中村,充 工藤,悟 藤井,潔 辻,孝子 濱田,千裕 杉浦,直樹 坂,紀邦 中嶋,泰則 加藤,恭宏 遠山,孝通 船生,岳人 澤田,恭彦 井澤,敏彦 鈴木,敏夫 釋,一郎 井上,正勝 朱宮,昭男 小島,元
発行元	愛知県農業総合試験場
巻/号	40号
掲載ページ	p. 83-91
発行年月	2009年2月

高品質、良食味な病害虫複合抵抗性水稻新品種「愛知108号」の育成

加藤 満*・城田雅毅*・中村 充*・工藤 悟*・藤井 潔*・辻 孝子*・濱田千裕**・杉浦直樹**・
坂 紀邦***・中嶋泰則****・加藤恭宏****・遠山孝通*****・船生岳人*****・澤田恭彦*****・
井澤敏彦**・鈴木敏夫*****・釋 一郎*****・井上正勝*****・朱宮昭男*****・
小島 元*****

摘要：愛知108号は、2007年に愛知県農業総合試験場で育成した水稻品種である。その来歴、特性は次のとおりである。

1. 1993年、病害虫複合抵抗性と良食味を目標として、愛知93号（後のあさひの夢）を母本、愛知96号（後の大地の風）を父本として交配を行い、その後代から育成した品種である。
2. 1995年、F₃集団で個体選抜を実施し、その後、系統育種法に従って選抜固定を進めた。
3. 本種は、あさひの夢、祭り晴と同熟期の早生のうるち種で、草型は偏穂重型に属する。収量は祭り晴より多く、外観品質は良好である。粘りと味が良好で総合的な食味はよい。
4. 害虫では、ツマグロヨコバイ、セジロウンカに抵抗性を有し、病害では、穂いもち、縞葉枯病に抵抗性を有する。穂発芽性は難である。
5. 本種は、温暖地平たん部の早植～普通期栽培に適する。

キーワード：愛知108号、複合抵抗性、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、縞葉枯病、穂いもち、高品質、良食味

Breeding of a New Multiple Resistant Rice Variety "Aichi 108" with Excellent Apparent Grain Quality and Good Eating Quality.

KATO Mitsuru, SHIROTA Masaki, NAKAMURA Mitsuru, KUDO Satoru, FUJII Kiyoshi, TSUJI Takako, HAMADA Yukihiro, SUGIURA Naoki, SAKA Norikuni, NAKAJIMA Yasunori, KATO Takahiro, TOUYAMA Takamichi, FUNAO Taketo, SAWADA Yasuhiko, IZAWA Toshihiko, SUZUKI Toshio, SHAKU Ichiro, INOUE Masakatsu, SHUMIYA Akio and KOJIMA Hajime

Abstract: A new rice variety "Aichi 108" was developed in 2007. The pedigree in breeding of this variety and its characteristics are summarized as follows:

1. The breeding of Aichi 108 was started in 1993 by crossing Aichi 93 (later named Asahinoyume) and Aichi 96 (later named Daichinokaze).
2. The individual selection was performed on F₃ population planted on paddy field in 1995. Since then, the pedigree method had been applied for the breeding work.
3. Aichi 108 belongs to the early maturing group as same as Asahinoyume and Maturibare, and partial panicle weight type possessing the stiff culm. The yielding ability of this variety is superior than that of Maturibare. Furthermore, it has an excellent apparent grain quality and very good eating quality.
4. This variety has remarkably high resistance to green rice leaf hopper and white-backed plant hopper. And also it is resistant to rice stripe disease and panicle blast. The pre-harvest sprouting nature of this variety is hard.
5. This variety will be well adapted to cultivation on the fertile or semi-fertile paddy fields in the plain regions of central Japan.

Key word: Aichi 108, Multiple pests resistance, Green rice leaf hopper, Whitebacked planthopper, Rice stripe disease, Panicle blast, High quality, Good eating quality

*作物研究部、**作物研究部（現企画普及部）、***作物研究部（現山間農業研究所）、
****作物研究部（現農業大学校）、*****作物研究部（現豊田加茂農林水産事務所）、
*****作物研究部（現知多農林水産事務所）、*****作物研究部（現愛知県農業機械商業協同組合）、
*****作物研究部（現JAあいち豊田）、*****作物研究部（現愛知県米麦振興協会）、
*****作物研究部（退職）
(2008.9.10 受理)

緒言

近年、愛知県平たん地域の水稲うるち種は、一部品種への作付偏重が顕著になっている。2000年頃までは、極早生種、早生種、中生種が同等の割合で作付けられ、作柄の安定化並びに稲作経営の作業効率化、機械装備・施設の合理化のために優れた作期分散が維持されていた。しかし、2001年以降は、銘柄米として市場評価の高い中生種「あいちのかおりSBL」と生産者米価の高い良食味ブランド品種の極早生種「コシヒカリ」の作付が拡大し、早生種の減少傾向は続いている。愛知県平たん部の早生種については、「祭り晴」が食味及び収量の年次変動が大きいことから作付面積が大きく減少している。また、「あさひの夢」は食味・収量とも安定はしているが、セジロウンカに弱く、多発年には甚大な被害が心配される。

「愛知108号」は、「祭り晴」「あさひの夢」が持つ縞葉枯病、穂いもち抵抗性の他に、「あさひの夢」にはないセジロウンカ抵抗性と「大地の風」由来のツマグロヨコバイ抵抗性を有する。また、玄米の外観品質が優れ、食味が「祭り晴」、「あさひの夢」より優れている。「愛知108号」は、病害虫抵抗性、食味特性、外観品質などの総合力において既存の早生品種より優れており、本県の早生熟期品種の栽培安定化並びに産米評価を向上させられると考えられる。

本報では、その育成経過と品種特性を報告する。

材料及び方法

1 育種目標

「あさひの夢」、「祭り晴」同等以上の高品質、良食味で、ツマグロヨコバイ、縞葉枯病、穂いもち等に強い病害虫複合抵抗性早生品種の育成を目標とした。

2 病害虫抵抗性検定、生産力及び特性検定

病害虫抵抗性生物検定は、愛知県農業総合試験場の常法によった。縞葉枯病検定は、温室内で大量飼育した縞葉枯病保毒虫のヒメトビウンカを用い、2～4葉苗、4～8頭/苗、放飼濃度は4～16（苗当たり虫数×放飼日数×保毒虫率）で行った。ツマグロヨコバイ検定は、2～4葉苗、3～15頭/苗で放飼し、寄生虫数を調査した。

生産力検定については稚苗機械植えで実施した。また、生産力検定、特性検定ともに、同一熟期の早生品種で県内作付面積1位、将来的に代替を目指す

「あさひの夢」を対照品種とし、同じく早生品種作付面積2位の「祭り晴」を比較品種として試験を実施した。なお、いもち病検定及び現地試験以外は、農業総合試験場作物研究部（愛知郡長久手町）において試験を実施した。

3 育種経過

本種の育成は、1993年、食味が良く、栽培安定性の高い「愛知93号」（後の「あさひの夢」）と複数の病害虫に抵抗性を有する「愛知96号」（後の「大地の風」）との交配から始めた（図2）。

F₁～F₂世代：1993年の秋冬作（世代促進温室）でF₁を栽培し、翌年に、F₂雑種集団を養成した。

F₃世代：1995年、F₃世代をほ場で栽培し、草型、穂相等で166個体、その後、玄米品質により111個体を選抜した。

F₄世代：111個別系統を展開し、ツマグロヨコバイ、縞葉枯病抵抗性生物検定及び草型、玄米品質により22系統を選抜した。

F₅～F₆世代：ツマグロヨコバイ、縞葉枯病抵抗性生物検定を継続し、草型が優れ、玄米品質が良好な系統の選抜固定を進めた。

F₇世代：11系統群32系統を展開し、草型、品質及び食味検定で1系統群に絞った。

F₈世代：ツマグロヨコバイ抵抗性についてマーカー検定を実施し、また、草型、品質、食味により1群2系統を選抜した。

2001年、F₉世代に「愛知108号」の系統名を付した。

結果及び考察

「愛知108号」は、①病害虫複合抵抗性（ツマグ

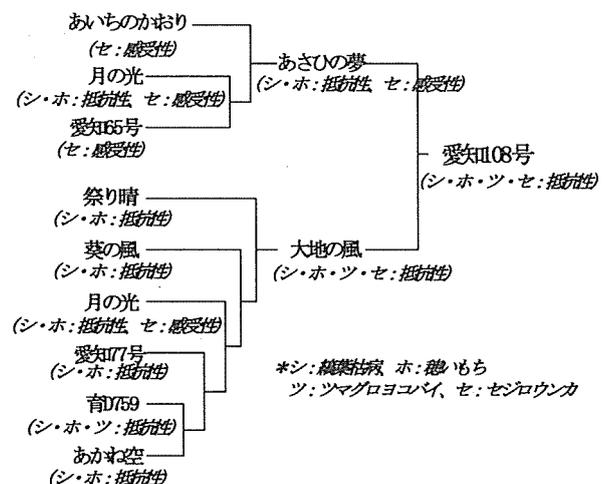


図1 「愛知108号」の系譜

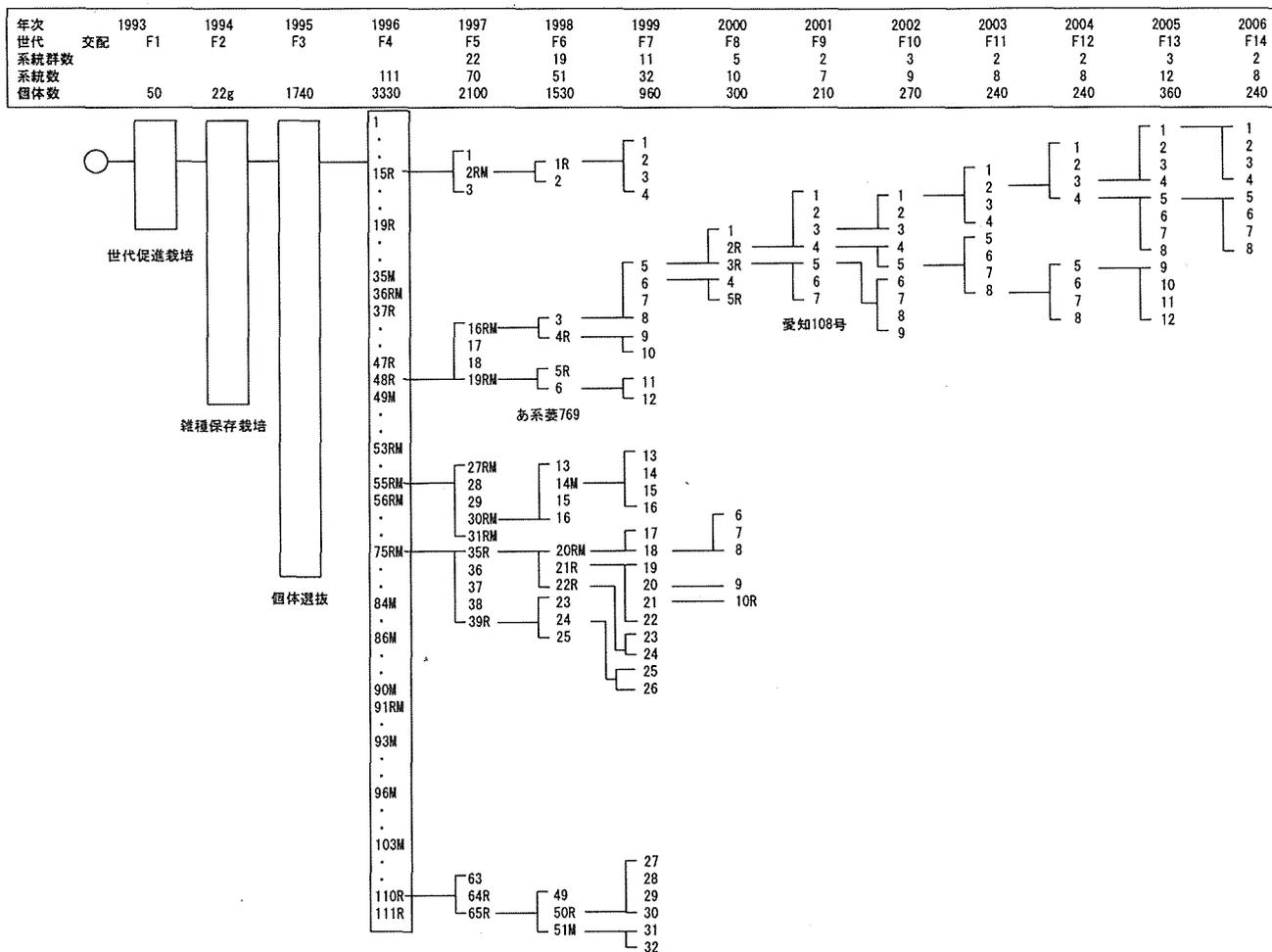


図2 「愛知108号」の育成経過

注、図中のR、RM、Mはツマグロヨコバイ生物検定結果
 ○はツマグロヨコバイマーカー検定結果
 縹葉枯病生物検定はF4～F6に実施（図中省略）

ロヨコバイ、セジロウンカ、縹葉枯病、穂いもち抵抗性を有し、②「祭り晴」より多収で、「あさひの夢」と同等以上の安定した高収量を示し、③「あさひの夢」、「祭り晴」より食味が良好で、④「祭り晴」より良質で、「あさひの夢」並に外観品質が優れることであり、育成開始時に設定した育種目標を達成した。

本種の主要形質別の特性は以下のとおりである。

(1) 早晩性（出穂・成熟期）

愛知県平たん部における早植栽培では、「あさひの夢」より出穂期で2日、成熟期で3日遅い。普通期栽培では、「あさひの夢」と出穂期が同じ、成熟期は1日遅い。愛知県の熟期区分では「早生種」に属する（表1、2）。

(2) 草型

稈長は「あさひの夢」より1cm長い。穂長、穂数



図3 「愛知108号」の成熟期の様相

は「あさひの夢」並で、草型は「偏穂重型」に属する(表1、2)。

出穂後の草姿は、「あさひの夢」に類似し止葉が直立し受光態勢は良好で、熟色は鮮麗で優れる(図3)。

N_0 節間長は「あさひの夢」よりやや長く、 $N_1 \sim N_5$ は、「あさひの夢」に類似する(表4)。

もみの粒着密度及び二次枝梗もみ歩合は「あさひの夢」と同等(表5)である。ふ色及びふ先色は黄白で、芒は極短く稀である。脱粒性は「難」である(表1)。

(3) 耐倒伏性及び穂発芽性

強稈で耐倒伏性は「あさひの夢」と同等で強い。穂発芽性は、「あさひの夢」より優れ、「祭り晴」と同等の「ごく難～難」である(表2、7)。

(4) 耐病虫性

「愛知108号」は、穂いもち、縞葉枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウンカの4種の病害虫に抵抗性を持った複合抵抗性品種である。

いもち病真性抵抗性は *Pia* 及び *Pii* と推定される(表8)。葉いもちほ場抵抗性は「中」であるが、穂いもちほ場抵抗性はインド型稲「Modan」由来の穂いもち抵抗性遺伝子 *Pbi* を持ち「強」を示す(表9)。縞葉枯病に対しては、「Modan」由来の抵抗性遺伝子 *Stvb-i* を持ち「抵抗性」である(表10)。ツマグロヨコバイに対しては、「Rantaj-emas2」由来の抵抗性遺伝子 *Grh-3* を持ち「抵抗性」である(表11、図4)。病害虫抵抗性検定については、 F_4 世代から生物検定により実施したが、育成半ばに、Fujii *et al*¹⁾ により、育種に利用可能なDNAマーカーが開発され、水稻病害虫抵抗性育種においてマーカー選抜の有効性が実証された。このため、育成後半においては、ツマグロヨコバイ抵抗性は、坂ら²⁾ が開発したDNAマーカーを用いた検定により、抵抗性遺伝子の保有を確認しながら選抜固定を図った。セジロウンカについては、高い抵抗性を持ち、稲体に寄生する虫は、「あさひの夢」に比べて明らかに少ない(図5)。セジロウンカ抵抗性については、以前より日本型稲は抵抗性を有していると考えられていた³⁾。しかし、「あさひの夢」が普及した頃より愛知県内でセジロウンカの被害が頻繁に報告され始めた。中村らは⁴⁾、「あさひの夢」を含む日本型及びインド

型稲の61品種系統について抵抗性検定(殺卵作用検定)を実施し、日本型稲においても殺卵作用に品種間差があることを明らかにした。その結果、「あさひの夢」の殺卵率は低く、「愛知108号」の殺卵率は高かった。本県尾張地域にはセジロウンカが常発する地帯があるが、「愛知108号」を作付することで被害を軽減することが可能と考えられる。

(5) 収量性、玄米形質・品質及び食味

収量は、早植栽培、普通期栽培ともに「あさひの夢」と同等で「祭り晴」より多収であり、安定して高い収量性を示す(表2)。

玄米千粒重は、「あさひの夢」と同等である。玄米の形は「半円」に属し、長さは「あさひの夢」よりわずかに長い。玄米の外観品質は「祭り晴」より優れ、「あさひの夢」と同等以上で良質である(表3、6)。

炊飯米の食味は、「あさひの夢」、「祭り晴」より味、粘りで勝り、良食味である(表12)。

(6) 直播適応性

直播栽培(不耕起V溝直播)における収量性及び品質は良好で、倒伏もみられず、直播適応性は高い(表13)。

(7) 現地適応性

2001年から2007年にわたり、県内延べ51か所のほ場で現地適応性について検討した結果、「愛知108号」は地力中庸～秋落ち地、乾田肥沃地、湿田肥沃地のいずれの地域でも適応性は高く、高品質で安定した収量性を示した。また、2006年、2007年に県内延べ18か所で実施した現地拡大試験においても、収量性、品質ともに良好であり、多数の地域で有望～やや有望の評価が得られた(表14、図6)。

(8) 適期適作による作柄安定化

前述したように、現在、本県平たん地域では、「コシヒカリ」と「あいちのかおりSBL」への過度な作付偏重がおきている。一部の品種への集中は、不適期作付が余儀なくされ、中生品種「あいちのかおりSBL」を5月上旬に移植する地域もみられるようになってきた。以前、友松らは⁵⁾、「あいちのかおり」の5月上旬移植は、収量及び品質面から適応可能としている。しかし、近年の気候変動は激しく、8月中下旬以降も登熟には不適な高温となる年も頻発している。当該年次には、移植時期の早い「あいちのかお

表1 一般特性

品種系統名	早晩性	草型	稈		芒		ふ先色	粒着密度	穂首抽出	脱粒性
			剛柔	細太	長短	多少				
愛知108号	早生	偏穂重型	剛	やや太	極短	稀	黄白	中	中	難
(対) あさひの夢	早生	偏穂重型	剛	やや太	短	極少	黄白	中	中	難
(比) 祭り晴	早生	偏穂重型	やや剛	中	極短	稀	黄白	やや密	中	難

表2 作期・施肥法別の生育収量

品種系統名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏の 多少	病害の多少			精玄米重 kg/a	同左対照 比率 %
							紋枯病	穂いもち	ごま葉枯		
(早植・標肥)											
愛知108号	8.17	9.23	75	21.5	397	0.0	1.5	0.2	0.0	61.3	102
(対)あさひの夢	8.15	9.20	74	21.4	387	0.0	1.5	0.0	0.0	60.1	100
(比)祭り晴	8.15	9.21	74	21.9	373	0.0	1.8	0.0	0.0	57.1	95
(早植・多肥)											
愛知108号	8.18	9.24	79	22.0	394	0.0	1.5	0.0	0.0	64.5	103
(対)あさひの夢	8.16	9.23	77	22.1	402	0.0	2.1	0.0	0.0	62.4	100
(比)祭り晴	8.16	9.23	76	22.4	371	0.0	2.0	0.0	0.0	60.0	96
(普通期)											
愛知108号	8.24	9.29	76	21.5	356	0.0	0.8	0.0	0.0	61.9	99
(対)あさひの夢	8.24	9.28	75	20.1	363	0.0	1.0	0.0	0.0	62.7	100
(比)祭り晴	8.23	9.27	72	20.6	332	0.0	0.4	0.0	0.0	57.3	91

注、移植期は、早植栽培5月23日、普通期栽培6月15日

早植栽培は、2001～2006年の6か年平均値、普通期栽培は、2006年の結果

倒伏、病害の多少：0（無）～5（甚）

表3 施肥法別の玄米調査

品種系統名	玄米 ^{1000粒} 重 g	玄米 千粒重 g	品質	被害粒の多少									
				腹白	心白	乳白	背白	基白	青未熟	死米	茶米	胴割れ米	穂発芽米
(早植・標肥)													
愛知108号	825	22.5	4.8	0.5	0.4	0.6	0.4	0.2	0.3	0.4	0.2	0.0	0.0
(対)あさひの夢	829	22.4	5.0	0.7	0.5	0.5	0.3	0.2	0.2	0.7	0.2	0.0	0.0
(比)祭り晴	821	21.3	5.6	0.2	0.3	0.7	0.6	0.3	0.3	0.5	0.3	0.0	0.0
(早植・多肥)													
愛知108号	824	21.9	5.4	0.2	0.6	0.8	0.2	0.2	0.4	0.5	0.3	0.0	0.0
(対)あさひの夢	828	22.0	5.4	0.5	0.1	0.4	0.2	0.0	0.3	0.6	0.2	0.0	0.0
(比)祭り晴	821	21.0	5.8	0.3	0.2	0.7	0.4	0.3	0.4	0.6	0.3	0.0	0.1

注、移植期は5月23日、2001～2006年の6か年平均値

品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価

被害粒の多少：0（無）～5（甚）

表4 節間長（2006年）

品種系統名	穂長 cm	節間長 (cm)					
		N0	N1	N2	N3	N4	N5
愛知108号	20.8	35.66	18.39	11.86	6.58	2.39	0.02
(対)あさひの夢	20.7	35.22	18.27	12.00	6.70	2.51	0.02
(比)祭り晴	20.7	35.26	18.30	11.98	6.67	2.53	0.02

表5 穂相（2006年）

品種系統名	穂長 cm	1穂着粒数 粒	粒着密度 粒/cm	枝梗数		枝梗別粒着数		同左歩合 %	
				1次 本	2次 本	1次 粒	2次 粒		
愛知108号	20.84	111.0	5.3	11.8	15.8	67.7	61.0	43.3	39.0
(対)あさひの夢	20.71	110.6	5.3	12.0	15.8	67.8	61.3	42.8	38.7
(比)祭り晴	20.74	111.2	5.4	11.9	16.0	67.7	60.9	43.4	39.1

表6 玄米の形状 (2006年)

品種系統名	長さ			長さ		
	長さ	幅	厚さ	長さ	長さ	×幅
	mm	mm	mm	／幅	×幅	×厚さ
愛知108号	5.26	2.75	1.91	1.91	14.47	27.63
(対)あさひの夢	5.19	2.79	1.93	1.86	14.48	27.95
(比)祭り晴	5.10	2.78	1.94	1.83	14.18	27.51

表7 穂発芽検定

品種系統名	1回目	2回目	判定
	%	%	
愛知108号	4	20	◎○
(対)あさひの夢	18	69	○△-△
(比)祭り晴	7	18	◎○

注、2001-2006年の平均値

発芽率 1回目：置床後3日目

2回目：同5日目

判定基準 ◎：ごく難、○：難、

○△：やや難、△：中、×：易

表8 いもち病真性抵抗性検定 (2005年)

品種系統名	Kyu89-246	新83-34	稲86-137	推定 遺伝子型
愛知108号	R	R	S	a i
新2号	S	S	S	+
愛知旭	S	R	S	a
藤坂5号	R	S	S	i

注、R：抵抗性、S：罹病性

新2号、愛知旭、藤坂5号：真性抵抗性検定の基準品種

試験実施場所：山間農業研究所

表9 いもち病ほ場抵抗性検定 (2005年)

品種系統名	葉いもち		穂いもち	
	発病度	判定	発病度	判定
愛知108号	1.0	○△~△	1.5	◎○
(対)あさひの夢	1.1	△	2.5	○
(比)祭り晴	0.5	○△~△	2.0	○

注、発病度：0（無）～10（甚）の11段階

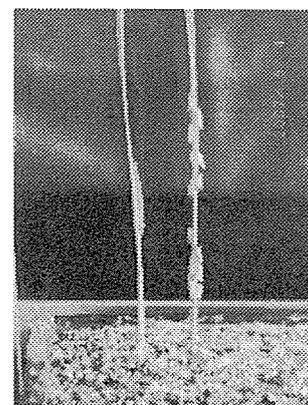
判定基準 ◎：ごく強、○：強、○△：やや強、△：中、△×：やや弱、×：弱

試験実施場所：山間農業研究所

表10 縞葉枯病抵抗性検定

品種系統名	発病苗率		判定
	2005	2006	
	%	%	
愛知108号	0	0	抵抗性
(対)あさひの夢	8	9	抵抗性

注、2.8～3.0葉期の幼苗検定

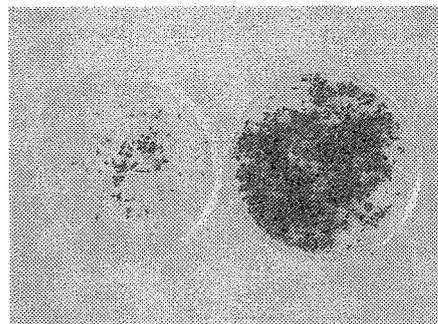


愛知108号 あさひの夢
(抵抗性) (感受性)

図4 幼苗検定によるツマグロヨコバイ寄生状況

表11 ツマグロヨコバイ抵抗性検定

品種系統名	苗の寄生虫数			判定
	2004	2005	2006	
愛知108号	1.9	0.4	4.1	抵抗性
コシヒカリ	7.9	8.5	—	感受性



愛知108号（抵抗性） あさひの夢（感受性）
 図5 すくい取りによるセジロウンカ捕獲状況

注、2.8～3.0葉期の幼苗検定

コシヒカリ：ツマグロヨコバイ感受性の基準品種

表12 食味検定結果

品種名	食味評価											
	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ						
愛知108号	0.27	a	0.10	a	0.05	a	0.26	a	0.09	a	-0.02	ab
(対) あさひの夢	-0.04	b	-0.04	a	-0.05	a	0.01	b	-0.27	b	0.29	b
(比) 祭り晴	-0.07	b	0.01	a	-0.04	a	-0.10	b	-0.13	b	-0.10	a

注、2001～2006年の平均値、パネラー数：約15名

基準品種：祭り晴（食味検定用に栽培）

表13 直播栽培での生育収量（2006年）

試験名	品種系統名	出芽期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏の多少	精玄米重	同左対照比率	玄米千粒重	品質
直播・標肥 (10Nkg/10a)	愛知108号	5.29	8.22	9.26	69	20.2	385	0.0	55.4	105	21.9	4.1
	(対) あさひの夢	5.30	8.21	9.26	68	19.8	385	0.0	52.6	100	21.8	4.2
	(比) 祭り晴	5.30	8.21	9.26	68	20.4	400	0.0	53.4	101	21.3	5.4
直播・多肥 (15Nkg/10a)	愛知108号	5.29	8.26	9.3	75	20.0	400	0.0	60.6	111	21.6	3.5
	(対) あさひの夢	5.29	8.24	9.29	70	20.8	340	0.0	54.4	100	21.4	4.8
	(比) 祭り晴	5.30	8.24	9.28	71	21.2	395	0.0	58.2	107	21.1	5.5

注、直播：不耕起V溝直播

倒伏の多少：0（無）～5（甚）

品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価

表14 現地試験の収量比率・品質と評価

土壌区分	場所	調査年次	愛知108号			(対)あさひの夢		(比)祭り晴		
			収量比率	品質	評価	収量比率	品質	収量比率	品質	
中山間 地力中庸～秋落ち	岡崎市	2001-2003	93	5.3	○△	100	5.3			
	新城市	2001-2007	102	4.6	○	100	4.7	107	5.3	
		御津町	2001-2007	111	5.8	○	100	5.7	91	6.3
		春日井市	2001-2007	95	4.4	○	100	4.6	92	4.9
	小牧市	2007	109	4.5	○	100	5.5			
乾田肥沃	犬山市	2002-2007	104	4.8	○	100	4.6	112	4.8	
	農大	2004-2006	98	4.5	◎○	100	4.9	93	6.5	
	吉良町	2004-2007	98	5.2	○	100	5.0	99	5.7	
湿田肥沃	阿久比町	2001、2005-2007	98	4.5	○	100	4.2	83	5.0	
	尾西市	2001-2002	106	4.6	○	100	4.6			
	七宝町	2001-2004	103	5.0	○△	100	4.5			

注、祭り晴の試験は、2007、2008年に実施

品質は、1（上の上）～9（下の下）の9段階評価

評価 ◎：有望、○：やや有望、△：不明、×：見込みなし

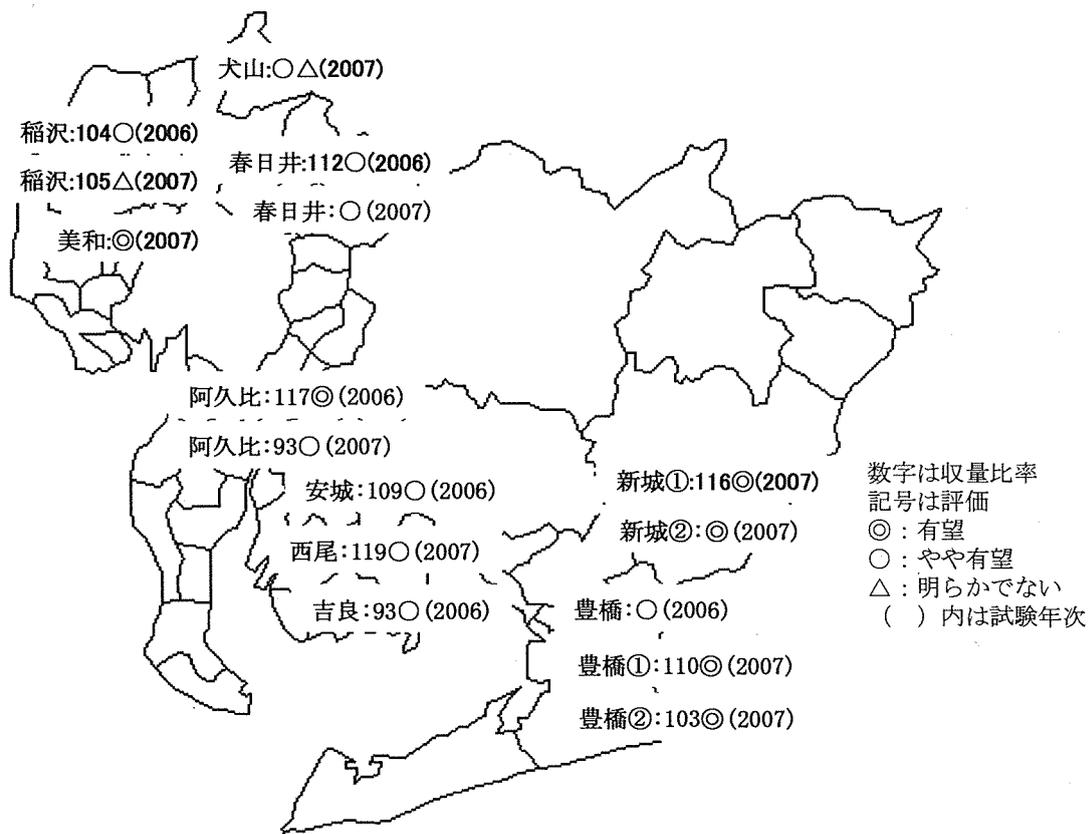


図6 拡大現地試験の収量性と評価
注、収量比率：あさひの夢対比・%

りSBL」で高温登熟に起因するとみられる白未熟粒の発生による品質低下が問題となる事例が報告されている。早生品種「愛知108号」は、高温登熟条件下においても品質劣化が小さい特性を持っており(図7)、気象変動に対しての適応力も高いと考えられる。

「愛知108号」の普及拡大により、①極早生種(「コシヒカリ」主体)による早期栽培、②早生種(「愛知108号」主体)による早植栽培、③中生種(「あいちのかおりSBL」主体)による普通期栽培の3つの主要な作型の作期分散再構築が期待される。このことにより、適期に適正な品種が作付けされ、作柄は安定し、県産米の評価向上が期待される。

(9) 栽培上の注意点

適応地帯は、温暖地平たん部で、縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイ、セジロウンカに抵抗性を有するので同病害虫発生地域にも適している。適する作型は、早植栽培(5月中下旬)～普通期栽培(6月上中旬)である。

強稈で耐倒伏性は強であるが、良質・良食味生産のために多肥栽培は避け、また、適期収穫に努める

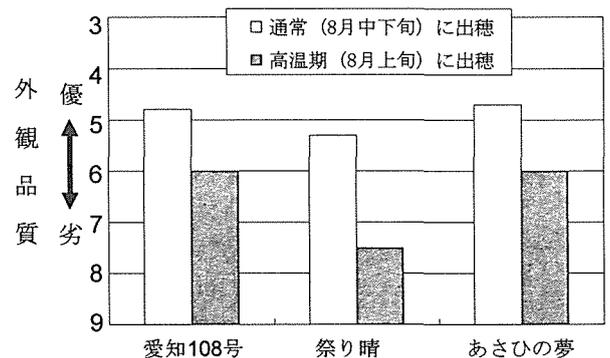


図7 愛知108号の通常期及び高温期出穂での品質
注、2004-2006年の平均値

